

報道関係者各位

2023.5
嵯峨嵐山文華館

ふあん・ファン・FUN センス
～扇子いいね



8世紀初頭に中国より伝来したとされる団扇（うちわ）は、涼をとるほか虫や邪気を払う道具として使われました。一方、平安時代に団扇を改良してつくられた扇子（せんす）は後に神事の道具や貴族の装身具となり、茶道や舞に用いる小道具としても重宝され、美しい絵柄が描かれてきました。また、高貴な身分の者が備えた品格や女性らしさなどを表現するモチーフとして、しばしば絵画の中にも登場します。今でも扇は身近なアートであり、時に広告メディアやサイン色紙としての役割を果たすこともあります。本展覧会では、京扇子の老舗「白竹堂」ご協力のもと、団扇や扇子が描かれた日本画作品とともに、主に江戸時代から現代にかけてつくられた様々な扇を展示いたします。

会期：2023年7月14日（金）～10月9日（月・祝）

前期：7月14日（金）～8月28日（月）／後期：8月30日（水）～10月9日（月・祝）

【主催】嵯峨嵐山文華館、京都新聞

【作品点数】

【特別協力】株式会社山岡白竹堂

前期／後期 合計：約40点

【後援】京都府、京都市教育委員会、京都商工会議所

（通期：34点）

センス色々！近世・近代画家が描いた扇面から扇子の作り方まで

蒸し暑い日本の夏。扇子には涼をとる実用的な役割がありますが、他にも神事や祭礼、茶事や舞などに用いられ、日本文化と深く関わってきました。絵画の中もよく描かれる扇子は、繁栄を意味する縁起のよい文様として着物の柄などにも用いられてきました。また、扇は特殊な形をした小さなキャンパスでもあり、その形を活かしてデザイン性のある絵柄が描かれてきました。第1章では近世の画家・中村芳中による48枚もの扇面が貼られた屏風や、竹内栖鳳や上村松園など近代の著名画家が手がけた粋な扇絵、昭和時代の企業広告用の扇面画などを展示。さらに、職人技が光る京扇子の制作工程もご紹介いたします。



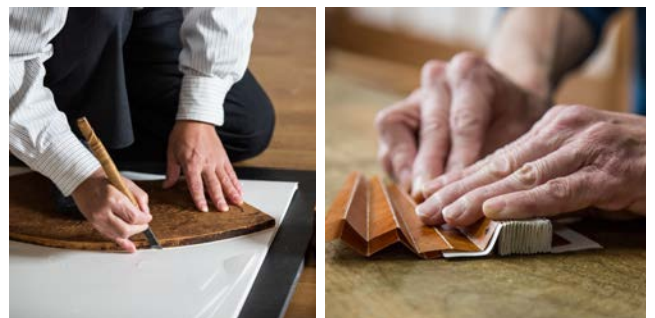
中村芳中《花鳥人物扇面貼交屏風》（右隻）江戸時代中期～後期／福田美術館蔵



小林古径《扇売》昭和時代
福田美術館蔵



上村松園《春風》1936年頃
福田美術館蔵



扇面の制作工程（部分）



竹内栖鳳《野雀》大正～昭和時代／白竹堂蔵

扇面がもたらす美のエッセンスと初公開作品

冷房のなかった時代に人々は扇子や団扇で暑さを凌いできましたが、扇を携えた美人を見るだけで、涼やかな気持ちになるものです。第2章では団扇や扇子がもたらす風雅や美を、美人画などを通してご紹介いたします。初公開の《京都画壇名家団扇十二幅対》では、明治から昭和にかけて京都で活躍した画家12名によって描かれた団扇の作品がずらりと並びます。ぜひお気に入りの1点を見つけてみてください。



磯田長秋《浅宵》明治～昭和時代／福田美術館蔵



塩川文麟《線香火花図》
江戸後期～明治時代／福田美術館蔵



歌川広重《美人と猫図》
1856年／福田美術館蔵



菊池契月《京都画壇名家団扇十二幅対》
明治～大正時代／福田美術館蔵



西村五雲《京都画壇名家団扇十二幅対》
明治～大正時代／福田美術館蔵

サイン色紙としての扇面

第3章では、著名人が揮毫するいわばサイン色紙のような役割を担った扇を陳列。近世画家が宿代の代わりに描いた扇子から、現代のイラストレーター・天野喜孝氏の描き下ろし扇絵、将棋界を代表する藤井聡太竜王の揮毫、ミュージシャンが筆を走らせた扇面など、各界の著名人による様々な扇面をお楽しみください。



忌野清志郎による
イラストの扇面
白竹堂蔵

展覧会概要

- 企画展名 「ふあん・ファン・FUN ～^{センス}扇子いいね」
- 会 期 2023年7月14日（金）～10月9日（月・祝）
前期：7月14日（金）～8月28日（月）
後期：8月30日（水）～10月9日（月・祝）
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 8月29日（火）展示替え
- 主 催 嵯峨嵐山文華館、京都新聞
- 特別協力 株式会社山岡白竹堂
- 後 援 京都府、京都市教育委員会、京都商工会議所
- アクセス 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分

| 一般・大学生 | 高校生 | 小・中学生 | その他 |
|---------------|-------------|-------------|--|
| 1,000 (900) 円 | 600 (500) 円 | 400 (350) 円 | *障がい者と介添人1名まで各600 (500) 円 *幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金 |

<福田美術館両館共通券>

一般・大学生：2,300円/高校生：1,300円/小中学生：750円/障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース/広報用画像/ご取材に関するお問合せ

「嵯峨嵐山文華館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口

TEL：03-6264-2045 Email：samac-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 嵯峨嵐山文華館について

TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）

お問合せフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

プレス用画像一覧

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/funfunfun/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①土田麦僊《扇面流》
1934年／福田美術館蔵



②小林古径《扇売》
大正～昭和時代／福田美術館蔵



③上村松園《春風》
1936年頃／福田美術館蔵



⑤竹内栖鳳《野雀》大正～昭和時代／白竹堂蔵



⑥歌川広重《美人と猫図》
1856年／福田美術館蔵



⑦塩川文麟《線香花火図》
江戸後期～明治時代
福田美術館蔵



④中村芳中《花鳥人物扇面貼交屏風》上：右隻／下：左隻
江戸時代中期～後期／福田美術館蔵



⑨菊池契月
《京都画壇名家团扇十二幅対》
明治～大正時代／福田美術館蔵



⑩西村五雲
《京都画壇名家团扇十二幅対》
明治～大正時代／福田美術館蔵



⑧磯田長秋《浅宵》明治～昭和時代／福田美術館蔵

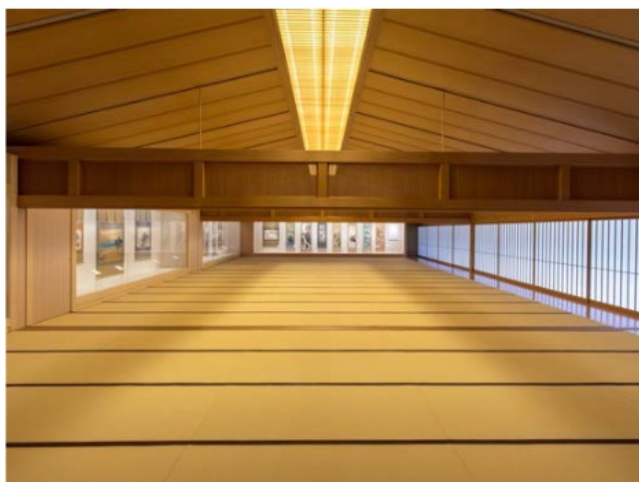
⑪忌野清志郎による
イラストの扇面
白竹堂蔵



嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入ると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

